

秋の講演会

平成21年10月31日（土）

味覚糖UHA館

社会自立を意識した聴覚障害児・者の指導  
- 幼少期からの意志決定能力とコミュニケーション能力の育成 -

筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター  
教授 石原 保志 先生



成人聴覚障害者を対象とした就労関係調査から、彼らの多くが職場や社会において様々な活動参加制限があることを述べていますが、将来このような現実に直面するであろう聴覚

障害児は、社会に出る前にどのようなレディネスを備えていなければならないのか、そのレディネスを培うために私たちは何を意識して教育にあたるべきなのかをお聞きしました。

～参加者の感想～

教育・医療・福祉、聴能とさまざまな分野のある聴覚障害教育の研究・研修がありますが、今回石原先生には"社会自立"、"就業"における聴覚障害者の困難や意識その克服や職場の上司の意識等を聴覚障害者の実態調査をもとに丁寧に説明いただきました。

実態調査から、聴覚障害者にどのような能力が必要とされるのか、またエンパワーメント、セルフアドボカシーといった周囲と自分を変えていく力が必要という事を詳しくお話しいただき、その基盤としてコミュニケーション能力、意志決定力、自己認識といったさらに深い自立について気付かされました。

石原先生には本日、就労・自立という地点、時期からのケースや指導について話していただきましたが、石原先生自身も聾学校幼稚部の経験がおりということで、今後機会がありましたら(是非!)今度は、将来像を見据えた早期、低年齢の指導や考え方等もお聞きしてみたいと思います。本日はありがとうございました。

情報保障が少しずつ進んでいるように理解していましたが、社会全体では進みづらい面を改めて感じました。障害者自身からのアプローチを進めるためにもより現実味のあるまた、これに近いものをイメージさせることが大切であることを知りました。講演の中で「個人的体験の共有(間接的体験)」に当たるそうです。

昨年ですが、一人で病院に行ったことがなく、学校でケガをしたとき通訳として付き添いをしましたが、医者と本人(生徒)との関わりを大切にすることがありました。その後はすべてのことを一人で行動できていました。(自信をつけること、実体験で強くなる)この部分は本人だけでなくまわりの友人等にも伝わり、強くなる部分という意味で石原先生の意見に同感、賛同しました。

本日は有意義なお話を伺うことができました。「エンパワーメント」についてのお話を伺いながら、支援者としての大人たちの障害観が及ぼす影響力の大きさについて、もっと深刻な問題として考えていかなければならないという意を強くしました。

現在の聾学校教育は子ども達の自己肯定感を尊重するあまり大人が過干渉になっているのではないのでしょうか。その結果として過度に高い自己評価を子どもがしてしまったり、本当の意味の達成感を味わう機会がないために常に支援や指示が必要な存在として自分をとらえてしまうという状況に陥っているように思われます。

本来一人一人の子どもが持っているはずの人と関わる力を尊重するならばコミュニケーション体験に限らず石原先生のお話の中にあつたような「多種多様な困難な状況を体験」する機会とその事柄に真摯に向き合つて苦しんだり、泣いたりしながら自分の力で「満足できる対処」をする機会をいかに保障していくかということは大切だと思います。支援者である大人たちは子どもたちの成功体験だけでなく、失敗したときにどう立ち上がっていくかを見守り、そのことにどのような意味づけをしていくかというプロセスについての獲得体験(?)をコーディネートする力を求められていることをもっと自覚しなければならぬと感じました。

コミュニケーション力の低さ、ストレス耐性の弱さといった評価は子どもたちが成長過程で関わる大人たちの力量そのもの、障害観そのものへの評価だと受け止めるべきなのかもしれません。ありがとうございました。



社会自立を意識した指導の方法について自分の中で整理することができました。今後、現状でできていること、まだ足りないこと等分析していきたいと思います。職場実習先を決定するのも難しい状況にありますが、間接的な体験という部分も大切にしながら指導の計画を見通していかなければと思いました。ありがとうございました。

筑波技術大学生を対象とした調査に基づいた数々のご提案の中でも意志決定能力の重要性は大変共感すると同時に、一般の子どもたちにも必要な力だと思いました。その意志決定能力がコミュニケーション力や自己肯定感育成にも繋がっていくのだということがよくわかりました。基礎学力向上とともに日常の困難に立ち向かえる力を現場で一人一人の教師が意識して教育していかなければならないことを痛感しました。

今日のお話で現在勤めている幼稚部の子どもたちに「どんな人物になってほしいか」そして、そのためには「どのような力をつけていく必要があるのか」ということを考えさせられました。これから先、子どもたちはさまざまな困難にぶつかっていくと思います。言われていたようにその困難を乗り越え自信を持った子どもに育てていけるよう支援していきたいと思います。



社会自立のためには、文脈を理解したうえで会話ができる力が必要であり、そのために幼少時からの意識的な働きかけが大切、という話のところで共感を覚えました。

「空気が読めない」聴覚障害者は確かにいますが、単なる情報不足によるもの(例; 司会の「始めます」が伝わらず、会話を続ける)、長年情報不足の状況に置かれたことで形成された「態度」によるもの(例; ため口のような言い方を幼少時から大目に見られてきたので、フォーマル言い方ができない)、「空気が読めない」という「障害」によるもの(聴者にもいますね)があるでしょう。と に対する解決策は、石原先生のお話の中にもヒントがあつたと思います。 については、そういう障害だと周囲の人が割り切れないのでしょうか。「あの人はアスペだからしかたない」のような言い方を最近よく聞きますが、「あの人は聞こえないからしかたない」と言われると、電話できないといったことであればそれは本当に「しかたない(当然)」ものの、「読む力が低い・視野が狭い」のようなことであれば、「ちょっと待って」と言いたくなります。

筆者としては、「彼女は時間にルーズね」と同僚から言われたら、「この人は、暗に『あなたも時間にルーズよ。改めてね』と言いたいのかな」と考えてみるというように、自分のこととして考えるようにしてきたつもりですが(「鈍なこと、聞き流すことも時には必要」と自分に言い聞かせることもあります)、「空気が読めない」の解決策として、例えば、朝礼で上司が「公私混同しないこと」と言われた時、「誰か公私混同した人がいたから、上司はこんな話をされたのか。それとも、一般的な注意事項として話されただけなのか。もしかして自分の何かの行動をさして言われたのか」と考えて聞くというように、自分と重ねて考えて聞く態度の育成について、聾学校では、もう少し意識的・具体的に取り組む必要があるのかなと思いました。

石原先生の講演を聞きながら、a)「発音すると聞こえると思われるから」と言って、発声をやめた人、b)聴覚障害者の職場定着率の低さの原因を、情報保障(手話通訳配置)の問題に帰する人、c)能力不足や人間関係を築く力の弱さの原因を、聾学校の

教育方法に帰する人(実際、教育関係者としては何らかの取り組みが必要でしょう)、d)発言の一貫性のなさや変わり身を指摘されても、意味がわからず、逆に被害者意識を抱き怒り出す人、e)異なったやり方を認められず、自分のやり方に固執する人、f)周囲から「あの人は、知らないことを恥ずかしがらない。失敗しても、軽く謝罪するだけ」と批判的に見られている人、などいろいろな人に対する解決策(本人に対して、教育機関として)を具体的にうかがいたいと思いました。「これなら聾学校でもすぐに取り組める」と思えるような具体的な改善策を、教育現場にいる先生たちは求めているように感じます。

なお、私に「人間関係で悩むことはあるか？ 性格が合わない人はいるか？ どうやって解決しているか？」などと聞いてくる生徒がいます。高等部で友人関係に悩み、社会に出た時のことを考えて不安になっているのだろう、それで、聴覚障害者である筆者の話が聞きたいのだろうと思いますが、いつも「こんなぼかした答え方で、生徒の参考にならないのでは」と感じ、答え方に悩んでいます。

今回講演を聞かせて頂き、改めて社会に出た時の自立を目指して教育が必要だと思いました。社会に出て企業などで働いたときにどんな問題にぶつかり悩みを抱えているのか私たち教員はもっと知るべきだと思います。そのために実際に社会で働いている聴覚障害者当事者の話や色々なデータを知りたいと思いました。また、今回の講演の中で興味深かったのは「社会的文脈の理解」についてです。メタファ - の類型にもありましたが、日本語としては理解できても文脈となると聴覚障害者はなぜ苦手とするのか、どのようなイメージを持って文脈を捉えているのかを知りたいと思いました。話し手の意図が読み取れないためのすれ違いはさまざまな場面で起きていますが、学校で子どもたちにどう教えていくか、私自身まだまだわかりませんが、これから考えていきたいと思っています。

### 各地の研究会の予定

詳細は事務局へお尋ねください



#### 日本教育オーディオロジー研究会 総会ならびに研究発表会

日時:平成22年1月11日(月)祝日 13:30~15:00

場所:愛媛大学教育学部四号館4階総合授業研究室

連絡先 立入 哉 <tachi@h-tachi.com>

TEL:089-927-9513 FAX:089-946-5211

### 平成21年度近畿教育オーディオロジー研究協議会 今後の予定

#### 冬の学習会

テーマ:「難聴を合併した重複障害児の摂食、嚥下障害について」

講師: 滋賀県立小児保健医療センター言語聴覚士 坂本隆先生

テーマ:「聴覚障害乳幼児の教育について」

講師: 信州大学全学教育機構教職教育部准教授 庄司和史先生

日時:2010(平成22)年1月30日(土) 10:00~15:00

場所:滋賀県草津市立市民交流プラザ(滋賀県草津市野路一丁目17番地の2) JR琵琶湖線「南草津駅」東口より徒歩3分

参加費: 会員は無料(会員外は1000円) 申込多数の場合は会員を優先いたしますのでご了承ください。

定員:100名 申込方法:聾学校の会員・会員外(代表委員に申込用紙を提出してください)

その他の会員・会員外(事務局にFAX、またはインターネットで申し込んでください)

申し込み先: 奈良県立ろう学校内近畿教育オーディオロジー研究協議会事務局 FAX 0743-56-8833

ホームページ<http://www.normanet.ne.jp/kinki/> 申込締め切り日:2010年1月22日(金)

定員になり次第申込を打ち切ります。申し込み後、参加不可能な場合のみ連絡いたします。

情報保障:手話通訳 ループなどの必要な方は申込書にお書きください。

締め切り日以降はお受けできません。



#### 近畿教育オーディオロジー研究協議会事務局

事務局長 中井 弘征

〒639-1122

TEL:0743-56-2921

奈良県大和郡山市丹後庄町456

FAX:0743-56-8833

奈良県立ろう学校内

メール:h-nakai@indigo.plala.or.jp